



2026 年 8 月 10 日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとな
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

ストリートクラブにて。格好いい
ハンドリング♪ナイスコントロ
ール！



コントロール

理事長 貝沼 寿夫

サッカーワールドカップも、スペインの優勝で幕を閉じました。今回、日本代表に後輩が選出されたこともあり、にわかサッカーファンとして睡眠時間を削りながら、日本の試合を中心に楽しませてもらいました。

思い起こせば子どもの頃は、日本代表が世界を舞台に戦う姿を見ることもありませんでした。Jリーグの開幕によって競技の裾野が広がり、海外で活躍する選手も増え、日本はワールドカップに初出場して以来、今回で8大会連続出場となりました。今大会でも、ブラジルを相手に試合終了間際まで同点で競り合い、「勝てるかもしれない」と思わせるほどの力を見せてくれました。だからこそ、ブラジル戦での敗戦は個人的にも非常に残念でした。

「あの選手がけがをしていなければ」「最初の失点につながった場面で、審判の判定がコーナーキックになっていたら」「後輩の発言が誤解されることなく伝わっていたら」などと、つい考えてしまいます。私のようなにわかファンですらそう思うのですから、実際に日の丸を背負って戦った選手や監督、関係者であれば、なおさらだったでしょう。

しかし、スポーツは結果がすべてです。日本は1点しか取れず敗れ、ブラジルは2点を取って勝利した。それは変えようのない事実です。そして、選手のけがも、審判の判定も、相手の言動も、誰もコントロールできないことばかりです。

さて、私たちの仕事は知的障害者支援です。私たち龍鳳では、生活や就労の場において、利

用者さんの「こうありたい」を叶えることを支援と定義しています。当然、その支援は支援者側の都合ではなく、利用者さん本人の意思や希望に基づいて組み立てられるものでなければなりません。

私自身も反省を込めて振り返ることがあります。入所施設でも就労支援施設でも、社会生活を送るために一定のルールは必要です。そのルールを理解していただけるよう支援することは大切ですが、いつの間にか守らせることが目的になってしまっていることがあります。さらに、利用者さんをルール通りに、あるいは支援者の思い通りに動かせる人が「支援の上手な人」と評価される場面も、これまでたくさん見かけました。しかし、本来そうではありません。私たちがコントロールすべきは利用者さんではなく、自分自身の支援のあり方であり、支援方法やルールそのものです。それらを柔軟に見直し、より良いものへと変えていける人こそ、真に優れたと評価される支援者なのではないでしょうか。

世の中には、自然現象や社会の動き、他者の感情や行動など、自分ではコントロールできないことが数多くあります。そうしたものに心を捉われ続けるのではなく、コントロールできないことは一旦受け止めてから受け流し、自分自身の行動や言動、物の捉え方・考え方など、自らコントロールできるものに意識を向けていきたいものです。それが、より良い支援やより良い人生に繋がる一歩になるのだと私は思います。



♪清瀬花の里公園清掃の様子をご紹介します



ラベンダーの摘み取りも行いました 🌸



法人本部よりお知らせ

令和7年度決算報告については、龍鳳のホームページおよびWAMNETの社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム（法人名 龍鳳で検索）で開示しております。



ねえねえ、きいて



生活支援員 花岡 穂香

夜勤の事務作業中に、宿直室に来た A さん。
私の顔をチラチラ見ながらそーっと膝の上に座ってきました。
なんだか、気にかけてもらっているみたいで嬉しかったです！



キラリ☆と光るこの一枚



～今年度より始まったこぶしカフェ～
外のテラスで食べるおやつもいいですが、夏はやっぱり室内が心地良いです。（馬場 翔哉）

名前

皆さんは相手に話しかける時、名前を呼んで話しかけていますか？名前を呼びあうことで心理的距離を縮めることができ、信頼感や親近感を高める効果があるそうです！確かに名前を呼ばれるとなんとなく嬉しい気持ちになりますよね♪

最近清瀬事業所では「〇〇さん」と名前を呼んで話しかけることが出来るよう利用者さんにお伝えしています。もともと名前を呼ぶ習慣が身についている利用者さんであれば、顔も名前もわかるけれど名前を呼ぶ習慣がない、名前と顔が一致していない、名前が覚えられない、、等、人によって様々な課題があることがわかりました。課題クリアを目指し、利用者さん1人ひとりに合わせたコミュニケーション方法で名前を覚えて呼んでもらえるよう日々試行錯誤しながら頑張っています！頑張った結果、名前を呼んでもらえた時の職員、名前を呼べた時の利用者さんどちらの笑顔も本当に素敵なんです(^_^)自然と名前を呼びあえる素敵な職場を目指して引き続き頑張ります！

生活支援員 服部 優奈

フォトニュース ～7月の様子～

♪活動・余暇♪



ストリートクラブ

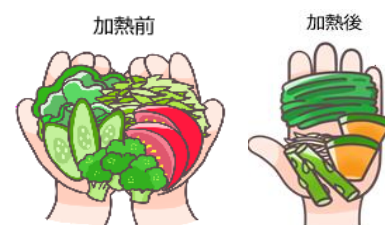


栄養コラム 「1日にどのくらい野菜を食べればいいの？」



野菜は各種ビタミンや食物繊維などの、体の調子を整える栄養素を多く含んでおり、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の予防に効果があるとされています。厚労省が日本人の健康づくりのために提唱した『健康日本 21』では、1日に350gの野菜をとることを目標としています。目安としては、生野菜では両手に山盛り3杯程度、加熱後の野菜は片手で3杯程度です。生野菜はかさが多く食べにくさがありますが、加熱するとかさが減ってたくさん量を食べられます。

そのため、具沢山みそ汁やおひたしなど調理法の工夫で摂取量を増やすことができます。バランスよく野菜を積極的に取り入れましょう。



管理栄養士 小林 由記子

ワールドカップから思うこと

暑さの厳しい日が続いています。今年の夏も平年より気温が高く厳しい猛暑となるとのこと。ニュースでは毎年どこかしらの地域で、史上最高・記録更新などの言葉を耳にします。そんな今年の夏ですが、サッカーワールドカップを楽しみに過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。私も日本代表の試合は概ね観戦しましたが、にわかファンであり、ワールドカップの時にテレビ中継を観る程度でした。しかし、今回のワールドカップを通して各選手の名前や現在の代表チームを取り巻く情報などを知るうちに、興味が高まってきました。

そんなワールドカップですが、今回の大会で特に印象に残ったのは、主力といわれる選手が怪我等で出場できず不在の試合でも、チーム全体で力を合わせて戦っていたことです。もちろん、そういった選手がいれば心強く感じます。しかし、そのような状況でも、出場する各選手それぞれが役割を果たし、勝利をつかんでいました。サッカーは11人で行うスポーツですが、実際には試合に参加する選手だけでは成り立ちません。ベンチで準備やサポートをする選手、監督・コーチ、その他多種多様の役割があるスタッフなど、多くの人がそれぞれの役割を果たしているからこそ、一つのチームとして役割を発揮できます。

この姿は、私たちの仕事の現場にも通じるものがあります。支援は一人の職員だけで完結するものではありませんし、多種多様な職種の職員同士が情報を共有し、それぞれの分野で業務を担当し、協力することが欠かせません。

今年度は職場の体制にも変化がありましたが、そのような中でも改めて感じるのは「みんなで支える」ことの大切さです。一人で抱え込むのではなく、今ある体制の中でお互いが協力し、それぞれが自分の役割を果たすことで、支援が提供でき、業務が回っていくのだと思います。

チームの力とは、どんな状況であっても互いに協力し合い、一人ひとりが役割を果たすことで生まれるものなのだと感じます。私たちも利用者さんに安心して過ごして抱けるよう、それぞれの力を持ち寄り、フォローし合いながら日々の支援・業務に取り組んでいきたいと思っています。

サービス管理責任者 剣持 勇気



伝えることの難しさ

私事ですが、今年度から実習課の課長、そしてこぶしに来て6年目になりました。時が経つのは早いなと思いつつ、私も責任ある立場になってきたんだなと感じています。

6年目にもなると後輩職員を教える『育成』の役割も担うことになります。育成するうえでのポイントや視点などを聞き、「頑張ろう!」と思っていますが、私は伝えることがとても苦手です。資料などにまとめるのは得意なのですが、言葉でとなると、相手に伝えるときに要点を絞らず、ダラダラ話してしまったり、同じことを何回か言ってしまうたり、早口になってしまったり……。聞いている側からすれば「結局何が言いたいのか?」となってしまうと思います。

自分でも欠点となっているところは理解しているので、後輩職員がより成長できるよう、伸び伸びと仕事ができるようサポートしつつ、自分もこの1年を通して一緒に成長、そして改善できるようになるといいなと思います。

生活支援員 宮島 千夏